

「文化祭の秋！」ということで、各学校の文化祭へ行ってきました。
都立や私立、高校や中学での違いを比べてみました。

※在校生、卒業生編集員の上から目線で書いています。

高等学校「第55回梧林祭」



▲鉄道研究同好会のコーナー

◀ピンクの串を模した座席のカフェでひと休み。

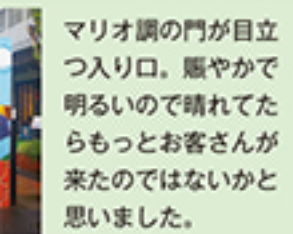
文化祭の展示（生物部や理科部などを見学）はどれに思える。生徒の個性が色濃く反映されており、より幅があったように見える。



<スローガン>

僕は梧林祭に恋をする

某少女漫画にちなんだスローガン。こちらの表紙が一番気に入っているように感じた。



マリオ調の門が目立つ入り口。賑やかで明るいので晴れてたらもっとお客さんが来たのではないかと思います。

やその家族、友達、卒業生の方々が主体となって盛り上がり、企画が多かったのも、もっと地味ではないだろうか。

で、生徒の楽しめる文化祭で大学の文化祭を確保しながら、学年を追うごとに

10/21 東山中学校「第61回文化祭」

劇

1年生「アリババと40人の盗賊」 1年生として東山中学校文化祭の伝統の劇に初挑戦であったが、一人ひとりが出来ることを精一杯行っていたと思う。来年もこの経験を生かしてがんばってほしい。

2年生「ウェストサイドストーリー」 去年同様の堅実な劇としながら、さらに各役のユーモアを詰め込むことができていたと思う。さすが2年生！

3年生 クラス劇 今年はコメディとシリアスな劇のバランスがとれていた。また、例年と違い、どのクラスも滑ることなくしっかりと劇を作っていた。よく頑張ったと思う。

展示

手前味噌ながら、「めぐろ」編集員の何人かが活動している技芸部の展示について、今年は部員が劇的に減少してしまったので、正直どうなるかと心配していました。ですが、受験を控えた桜井部長（めぐろ編集員）をはじめ、部員みんなが頑張ってお家芸の突貫作業で去年と同じ、いやそれ以上の立派な展示を行っていました。時間が無い中、みんなお疲れさまでした。

パンフレット



各劇・合唱のポスターを集めた感じ。どの団体もポスター班の画力が伝わってきて、さまざまな人の努力が感じ取れた。

<スローガン>

「創ろうかけがえのない文化祭
輝かそう心を震わす文化祭」

毎年なかなかのクオリティだが、今年も文化行事委員の並々ならぬ努力によって、とても立派な門が出来上がった。表と裏でデザインが違うのも面白い。

入り口



●今回、学校に取材をして、文化祭だけでもいろいろな特色があって面白いなと思いました。皆さんにもたくさん学校の文化祭を巡って楽しんでほしいなと思います！（彩葉）●今回、目黒学院の文化祭を取材して、初めて高校の文化祭に行ってゲームやカフェを体験しました。部活動コーナーなどさまざまな楽しめるコーナーがあり、とても楽しかったです。来年はもっといろいろな高校の文化祭に行ってみようと思いました。（にこ）●中3の時は時間の問題などであまり高校の文化祭を見学できなかったのですが、今回「普通の文化祭」がどういうものかを理解できてよかった。今後自校の文化祭で、もし万が一オタク向けの工夫をすることがあれば、参考にしたいと思う。（崇大）